**「スワ–ミー・ヴィヴェーカーナンダの理想的な人間の概念」**

2022年6月12日

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ第159回生誕祝賀会

上智大学名誉教授　ヴェリヤト・シリル・SJ神父

於・ヴィヴェーカーナンダ文化センター、 インド大使館

皆様ご存知のように、今日の講演の主題はスワ－ミー・ヴィヴェーカーナンダの理想的な人間の概念です。スワ－ミー・ヴィヴェーカーナンダはどのような人を理想的な人間として見なしていたでしょうか。彼の著作を見ると「人間がどうあるべきか」ということについて、彼は明確な見解を持っていたことがわかります。以下は彼が人間について言ったいくつかの声明です。

彼によると人間はすべての創造された物の中で最も偉大であり、完璧な人間は神以外の何物も見ていません。すべての人間は本質的に完璧です。一部の人々はこの完璧さを明らかにすることができるので、私たちが彼らを見るとき、彼らの中にあるその完璧さを見ることができます。この完璧さを明らかにしない人もいるかもしれませんが、しかし完璧になる可能性が私たち一人一人の中にあります。すべての人間は神聖であり、すべての人間は自分の本質によって神聖です。人間には無限の力があり、彼らはその力を感じることができます。彼らは自分自身が唯一の無限の神であることをはっきりと知っています。これらがスワ－ミー・ヴィヴェーカーナンダが人間について言った有名なコメントです

最近、ウェリンダー・グローバーという学者が編集したスワーミー・ヴィヴェーカーナンダに関する本を読み、そこでスワーミーご自身が書かれた次の文章を見付けました。そこには、彼が「偉大な使者」と呼んでいる人間、つまり、この世界に現れた過去のさまざまな宗教的伝統の聖なる傑出した男性と女性について語られていました。彼らについて書かれたことは次のとおりです。

*「人々は一般的に、たった一つの宗教、たった一人の預言者、そしてたった一人の神の化身しかあり得ないと思っています。それは真実ではありません。私たちがこれらの偉大な使者の人生を調べて見れば分かるように、それぞれが人生で特定の役割を果たす運命がありました。私たちが調和と呼ぶものは、一人の人間が果たす役割だけでなく、すべての人間が果たす役割に存在しています。人類は世界を自分だけで楽しむために生まれていません。すべての種族はこの神聖な調和において果たすべき役割があります。 すべての種族は実行する使命を持っています。 すべての種族は履行する義務があります。」*

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダがここで語っている偉大な使者たちは、明らかに過去の偉大な宗教指導者です。彼らは、多様な人種、伝統、信条、歴史的環境に属する著名な男性と女性で、彼らは単一のメッセージ、すなわち愛のメッセージによって刺激を受けました。彼らにとって重要なのは神と隣人を愛することでした。私は上記の文章から、このような人たちがスワーミー・ヴィヴェーカーナンダが語る理想の人間だとすぐに気づきました。過去のこれらの著名な男性と女性は、神を愛し、神に仕えることで一生を過ごしました。彼らは、ヴィヴェーカーナンダが私たち全員に模倣して欲しいを望んでいた人々です。

これらの偉大な使者たちは、私たちが「ミスティック」や「神秘主義者」または「聖人」と呼んでいる人たちです。このような神秘主義者や聖人は常に神の愛に満ちている人々ですが、時には神の愛が彼らを非常に強力につかみ、彼らが超常的な状態、想像を絶する喜びの状態に入ることがあります。これを「エクスタシー状態」と呼んでいます。私がスワ－ミー・ヴィヴェーカーナンダの伝記を初めて読んだとき、彼もこのエクスタシー状態を経験していることを知りました。彼は自分の多くの問題に落ち込んでいたときに、自分の尊師シュリー・ラーマクリシュナに会いに行き、その状態を経験しました。エクスタシーは喜びの状態ですが、神秘主義の学者によれば、その喜びが時々非常に激しくなり、痛みを伴うことさえあると言っています。大きな苦しみを味わうが、しかしそれは痛みではなく愛と喜びによって引き起こされた苦しみです。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、自分自身の神秘的な体験を次の言葉で説明されました。

「彼（シュリー・ラーマクリシュナ）が私のほうに近づいてきて、私が止める前に彼は自分の右足を私の体に置きました。その接触はとても痛かった。私の目が開いていて、部屋の壁や他のすべてのものが急速に渦巻いて無に消えていくのを見ました。まるで宇宙全体と私が同時にすべてを覆っている空虚さの中で消えってしまったように見えました。怖かったです。 私は自分が死に直面していると信じていました。私は自分をコントロールできなかったので、「何をしているの？家で両親の世話をしなきゃ！」と叫びました。そうすると、あの偉大な賢人が私の体から自分の足を取り除きました。彼が足を離した瞬間、私の珍しい経験も消えました。部屋を見回すと、以前と同じようにすべてが正常であることがわかりました。」

上記はスワ－ミー・ヴィヴェーカーナンダの神秘的な経験であり、歴史家によればこの経験の後、彼はまったく別の人物になりました。彼は二度と同じ男に戻る事はありませんでした。この経験は彼に新しい道を開き、彼にとってそれは新しい人生の始まりでした。

さて、西洋の学者はこのような経験をどのように見ているのでしょうか。19世紀のイギリスに神秘主義に深く興味を持っていたウィリアム・ブレイクという有名な詩人がいました。彼は宗教学者ではありませんでしたが神秘的な体験が大好きで、その体験のことを次の美しい言葉で説明されました。

*「一粒の砂で世界を見る、野生の花で天国を見る、手のひらに無限大を持つ、1時間で永遠を楽しむ」*言い換えれば、砂粒を見ると宇宙全体が見え、花を見ると天国が見え、自分たちが無限で永遠であることに気づいたとき、我々は永遠の神を体験したということになります。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダにとって、これは理想的な人間だと思います。理想的な人間は、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダご自身と同様に、神を経験した人物です。

ここで、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが持っていた神のイメージについて説明したいと思います。ご存知のように、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは評判の高い学者でした。彼は、聖書や「キリストに倣いて」のような有名なキリスト教の聖典を含む、さまざまな宗教の多種多様な経典を研究していました。それらすべての経典が彼に影響を与えたと私は確信しています。しかし、最も大きな影響を与えたのは2つのヒンドゥー教の経典で、それはウパニシャッドとバガヴァッド・ギーターではないかと思いました。ウパニシャッドはさまざまな方法で神を描写しています。神は永遠の超越的なものとして描写されており、始まりも終わりもなく、そして変わらないものです。言葉で神のことを説明することはできません。神はすべての存在と非存在を超えていますが、それでも不思議な方法で神はすべてに浸透し、すべての基盤です。

神は至高の霊であり、純粋な意識の海であり、全知であり、至福で不滅であり、無限であり、最小の原子よりも小さく、最大の空間よりも大きく、すべての活動の監督者です。歴史家のダスグプタによれば、ウパニシャッドでは、神は私たちから離れたものではなく、私たちが喜ばせようとしている人でもありません。 神は私たちが従う法や命令を持っている人ではありません。私たちが敬意と献身をもって服従する人でもありません。むしろ、神は私たち自身の究極の本質であり、宇宙の最高の絶対者です。私たちは神のことをアートマン（永遠の魂）、またはブラフマン（すべてを浸透している永遠の霊）と呼びます。

バガヴァッド・ギーター聖典の第11章では、クリシュナ神がすべての主として、自分の最高の栄光の形でアルジュナ王子の前に現れました。その壮大なビジョンの中で、アルジュナ王子はクリシュナ神の体の中で宇宙全体を見ました。 それは千の太陽の光のようなビジョンで、アルジュナ王子はそのビジョンに圧倒されました。彼はクリシュナ神のことを多くの名前で呼びました。例えば、不滅のもの、宇宙の究極の休息場所、永遠の法の不滅の守護者などです。

その様なことから、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダにとって理想的な人間とは、至高の神を神秘的に体験した人と言えます。その体験は、自分自身がシュリー・ラーマクリシュナに会ったときの体験と同様なものでなければなりません。理想的な人間とは、できるだけ完全に愛に動機づけられた人生を送る人です。彼の神への意識がそんなにも強いので、儀式や他の象徴的な手段を使用する必要性を感じていませんでした。彼は神様と非常に深い親密さがあるので、彼はすべての人々と周りのすべてのものに神の良さを放射するしかなかったのです。

理想的な人間にとって、つまりスワーミー・ヴィヴェーカーナンダのような神秘的な体験をした人にとって、その体験の後も周りの世界は変わらないでしょう。人々が見る世界は以前と同じですが、しかし彼らは違った視点を通してその世界を見るでしょう。学者のアンソニー・デ・メロは、禅仏教の例を用いて、この事を次のように説明しています。

ある禅師が悟りを開いたとき次の言葉を書きました。*「なんて素晴らしいことでしょう。 木を切ります。 井戸から水を汲みます。」*この一節についてデ・メロは次のように述べています。

*「ほとんどの人にとって、薪割りや井戸からの水汲みなどの活動には特別な意味は何もありません。 すべての村人がそれをします。悟りの後、何も実際には変わりません。 すべてが以前と同じままです。周りの木は同じ木になり、周りの人は同じ人になり、私たちも同じになります。ただし、大きな違いが1つあります。 今、私たちはこれらすべてのものを違った視点を通して見るでしょう。」*

これがスワーミー・ヴィヴェーカーナンダに起こったことです。シュリー・ラーマクリシュナとの神秘的な体験の後、彼は以前と同じ生活に戻りました。しかし、大きな違いがありました。彼は今まったく異なる方法で世界と自分の周りの問題に反応したのです。

私たちのインドの伝統では、サンスクリット語の「ジーヴァナムクタ」という言葉があります。これはヴェーダーンタ派の哲学で使われている言葉であり、まだ生きていて体を持っているにもかかわらず、転生の絆から解放され、神を体験した人を意味しています。そのような人々は私たちの間で普通の人々と同じように生活し働いていますが、彼らはすでに神の体験を有しています。そのような人々は、アートマ・ジュニャーニ（自分の魂またはアートマンを体験した人）、またはブラフマー・ジュニャーニ（すべてに浸透している永遠の霊またはブラフマンを体験した人）とも呼ばれます。

一部のヴェーダーンタ派の教師は、「ジーヴァナムクタ」の考えを受け入れませんでした。たとえば歴史家によると、アドヴァイタまたは不二一元論の哲学を教えた8世紀ごろのシャンカラーチャリャ師と、アチンチャベ–ダーベ–ダまたは不可思議不一不異説の教義を説いた15世紀ごろのチャイタンヤ・マハープラブ師は両方ともその考えを受け入れました。しかし、ヴィシスタドヴァイタまたは制限不二論の教義を説いた11世紀ごろのラーマーヌジャチャ－リャ師の場合、後世の学者は彼がそれを受け入れたかどうか確信はできないとしています。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは「ジーヴァナムクタ」の考えを受け入れたでしょうか。この質問に対する私自身の答えは、彼は確かにこの考えを受け入れたということです。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは「ジーヴァナムクタ」の概念を受け入れただけでなく、彼自身も「ジーヴァナムクタ」であり、彼が深く愛し尊敬していた尊師シュリー・ラーマクリシュナのことも「ジーヴァナムクタ」として見なしていました。